意思決定能力を欠如した高齢患者の胃瘻造設の代理意思決定をめぐる「揺らぎ」に関する研究

－家族の語りの分析を通して－

○　氏名　竹森　今日子（9437）

キーワード：胃瘻・代理意思決定・揺らぎ

１．研 究 目 的

高齢患者が疾病等により意思決定能力を欠如した場合の人工的水分・栄養補給法の代理意思決定は、その家族が担うことが社会的にも通例となっている現状がある。人工的水分・栄養補給法のなかでも侵襲性の高い処置である胃瘻の代理意思決定に着目すると、家族は決定前後にかけて一定の心理的プロセスを経ることや、代理意思決定のプロセスの中でも特に決定前において「揺らぎ」の状態に至ることが先行研究で明らかとされている。

しかしながら、長年に渡り高齢患者と関わってきた家族の心情を分析し、代理意思決定をめぐる「揺らぎ」を追究した研究は存在していない。高齢患者の胃瘻の代理意思決定を担う家族の心情を現状理解し、代理意思決定支援を検討する上でも、患者と共に歩む人生のなかで生じている家族の「揺らぎ」を考察することが重要であると考える。

本研究では、高齢患者の代理意思決定を経た家族の「語り」から、代理意思決定における心情が、患者及び家族の人生とどのように関連しながら生成または継続、変動しているかを分析し、代理意思決定における「揺らぎ」を詳細に考察することを目的とする。

２．研究の視点および方法

2018年11月から12月までの期間、胃瘻造設有無の代理意思決定を経験した家族へ半構造化面接によるインタビュー調査を実施した。調査対象者においては、研究協力を得たX病院、Z病院の入院患者の中から本研究に該当する状態の高齢患者を選出し、研究協力に同意された家族3名（75歳男性患者の妻、72歳女性患者の弟、82歳女性患者の夫）を調査対象とした。調査内容は、家族が語り得る「患者の人生」を対象時期とし、その「患者の人生」と関わるなかで、「代理意思決定についてどのような考えや思いを持っていたか、或いは持ち続けているか」を質問の主軸とした。

本調査で得られたデータから、患者の主要な出来事を集約して「心境を示す語り」を抽出し、「表出された心境及び表出されていない心情」を分析した上で、胃瘻の代理意思決定における「揺らぎ」を考察した。尚、本研究での「揺らぎ」の語意は、尾崎（1999：19）の定義に沿い「判断や感情等が動揺し、迷い、葛藤する事態」を示す用語として使用する。

３．倫理的配慮

本調査の実施にあたり、北星学園大学倫理審査委員会の承認を得た（文書番号18－研倫9号）。家族には、結果の公表に際し、得られたデータを匿名化して個人が特定されないよ

う最大限配慮すること、研究協力や中止は任意であること等を口頭と文書にて説明し、研究協力同意書の署名による同意を得た上で実施した。

４．研 究 結 果

代理意思決定をめぐる心境及び心情として、「胃瘻を選ぶべきかどうか分からない」という「葛藤や迷い」が家族全員に共通してみられた。この「胃瘻を選ぶべきかどうか分からない」という「葛藤や迷い」を代理意思決定における「揺らぎ」と捉えた上で、家族毎の「語り」から、代理意思決定の「揺らぎ」に共通する特徴が 2 点示された。

1 つは、「揺らぎ」を増減させる影響因があるという点である。「家族自身の思考や心情からの影響」と「医療従事者等の関係者や非人的媒体からの影響」が主な影響因として示された。なかでも「患者の利益」を優先する心情と、「医師との関わり」は影響因として共通していたが、前者は代理意思決定へと思考を導き、「揺らぎ」を減少させる影響が共通し、後者は医師との「信頼関係」の違いによって「揺らぎ」の増減に差異がみられた。

2 つめの共通点として、胃瘻の検討から代理意思決定までに限らず、代理意思決定前から現在に至るまで、「揺らぎ」の影響因が複雑に関連し合い、「揺らぎ」の増減が変動していることである。いずれの段階においても、患者との「家族としての関係性」の継続が背景にあり、影響因と関連しながら、現在及び今後の患者にとって「胃瘻を選ぶべきかどうか分からない」という「揺らぎ」が継続されていた。

５．考察

先行研究では、代理意思決定プロセスにおいて表出された否定的感情及び要因の明確化が重視される傾向があり、人生全体を通した代理意思決定をめぐる心情の動きや要因との関連には着目されてこなかった。本研究にて、胃瘻の代理意思決定時に限らず、現在に至るまで、患者の人生や関係性が心情と繋がりながら、多様な影響因が関連し合い、「揺らぎ」の増減が変動していく過程が示されたことは、代理意思決定を担う家族の複雑な心情を理解していくための新たな知見であると言える。そして、「揺らぎ」の影響因として医療・福祉関係者の関わりも見出されたことから、家族が抱え込んでいる「揺らぎ」の軽減且つ患者の利益に沿う決定へと繋げていく代理意思決定支援の示唆を得た。

尚、本報告は、北星学園大学大学院社会福祉学研究科提出の修士論文(2019)の一部改変に基づくものである

【参考文献】

神部（現姓：竹森）今日子（2019）「意思決定能力を欠如した高齢患者の胃瘻造設の代理意思決定をめぐる『揺らぎ』に関する研究－家族の語りの分析を通して－」北星学園大学社会福祉学研究科 2018 年度修士論文.

尾崎新（1999）『「ゆらぐ」ことのできる力－ゆらぎと社会福祉実践』誠信書房.